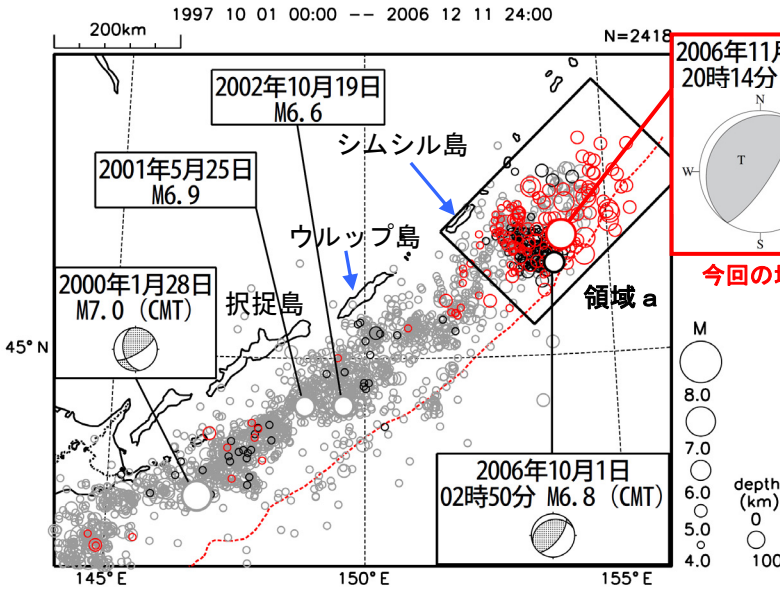


# 11月15日 千島列島東方の地震

## A 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 4.0$ )

2006年9月以降の地震を○、2006年11月15日以降の地震を●で表示している。

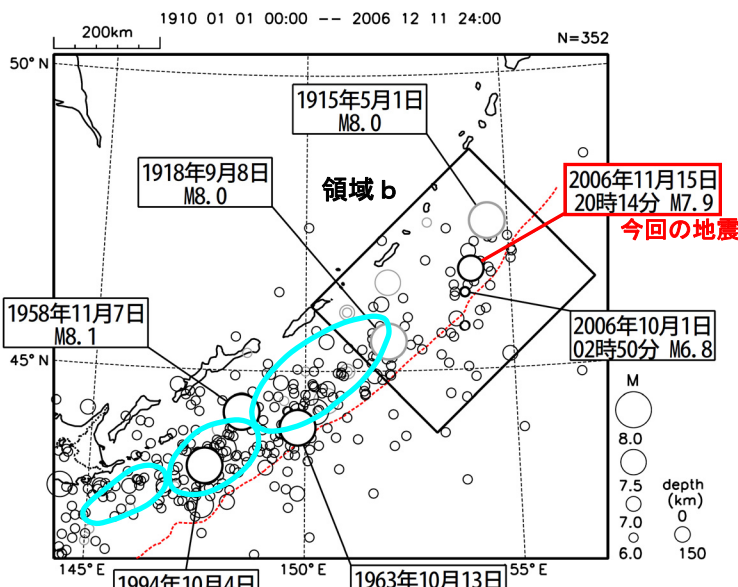


[今回の地震の発震機構解はハーバード大学によるCMT解。今回の地震活動の震源は、気象庁が震源を精度良く決定できる領域から離れているため、一部精度の良くないものも含まれている]

2006年11月15日20時14分に千島列島東方でM7.9(最大震度2)の地震が発生した。発震機構(ハーバード大学によるCMT解)は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、プレートの境界付近で発生した地震と考えられる。この地震に伴い、三宅島坪田で84cmなど、オホーツク海と太平洋沿岸及び伊豆諸島の広い範囲で津波を観測した。

今回の地震の震源付近では、9月下旬から10月初旬にかけて地震活動が一時活発であった(最大の地震は10月1日02時50分のM6.8(震度1以上を観測した地点なし))。(A)

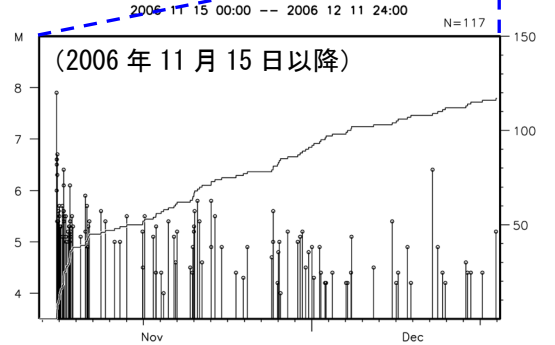
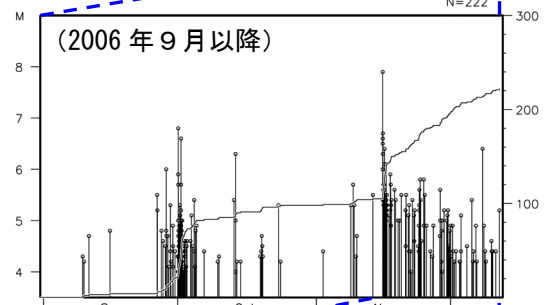
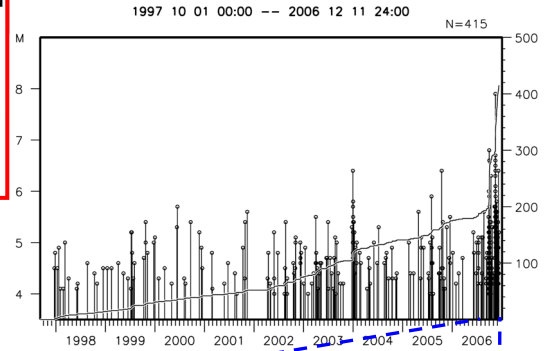
## B 震央分布図 (1910年以降、 $M \geq 6.0$ )



1994年北海道東方沖地震 1963年択捉島沖の地震

楕円状の領域は地震調査委員会による千島海溝沿いの想定震源域の大まかな位置を示す(南西側から根室沖、色丹島沖、択捉島沖) 1923年7月以前の地震の震央は歴史記録などからの推定位置であり、灰色の○で示している。

## 領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図



今回の震源域の周辺(領域 b)では、1915年5月1日にM8.0、1918年9月8日にM8.0の地震が発生している。(B)

